

公益社団法人 愛知県看護協会

平成28年度「摂食・嚥下障害看護」認定看護師教育課程

~・~・☆。修了式。~。~☆~



平成29年3月24日

第12期生の修了式が行われました。

7ヵ月間、同じ志を持つ仲間と支え合い、  
切磋琢磨しながら懸命に前に進みました。

楽しかったこともたくさんありました。

辛かったこともたくさんありました。

今はどれもいい思い出です。

5月に行われる認定審査の後、

「摂食・嚥下障害看護認定看護師」として歩き始めます。





# 教育課程を修了して…



## 秋田県立リハビリテーション ・精神医療センター



### 高橋 照美

修了にあたり、十二期生の仲間と過ごした日々が思い起こされます。七ヶ月前、摂食・嚥下障害看護認定看護師を目指す決意とともに、新しい環境や慣れない座学に対する戸惑いを感じながら研修が始まりました。試験やレポートなど次々と与えられる課題に困難を感じ、追い詰められるような気持ちになったこともありました。お互いに励まし合い、一つずつ乗り越えてきました。同じ志を持つ仲間たちとともに切磋琢磨した日々は、私にとって貴重な時間となりました。

講義では、摂食嚥下障害分野の第一線でご活躍されている講師の先生方からご指導をいただき、専門分野に関する多くの知識を得るとともに、自分の仕事に情熱と誇りをもち、追求し続ける姿勢を学ぶことができました。また、看護管理や教育指導、リーダーシップなどの講義を通して、認定看護師としてこれから果たしていくべき役割や責任についても学びました。

臨地実習では、様々な疾患をもつ患者様と向き合い、自分にできることは何かと悩みながら、毎日を過ごしました。患者様にとっての食べることの意義を考え、その想いに寄り添って支える看護の難しさと喜びを実感し、認定看護師を目指す決意を新たにしました。

高齢化が進む社会では、摂食嚥下障害看護の対象となる患者様にも変化が生じています。回復して食べられるようになる方ばかりでなく、食べることが叶わない患者様に関わる機会も増えるでしょう。時代の変遷とともに、認定看護師に求められる能力や役割も変化します。その変化に対応し認定看護師としての責務を果たすため、教育課程での学びを糧に、一生の宝である十二期生の仲間たちとともに研鑽を続けていきます。

私たちが無事に修了式を迎えることができたのは、熱心にご指導くださいました先生方をはじめ職員の方々、研修に送り出してくださいました所属施設の皆様、そして家族など、多くのご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

## 豊田地域医療センター

遠藤 志帆



食べることは、人間にとって生きていくために必要不可欠なものであると同時に、楽しみでもあります。しかし、疾患や加齢、認知などにより摂食嚥下機能を障害されてしまうことは少なくありません。私が勤務している病院にも、様々な理由で摂食や嚥下が困難となっている患者が多くいます。日々の看護の中で、「食べたい」という強い思いに接しているうちに摂食嚥下について興味を持ち、もっと深く学びたいという思いが強くなりこの教育課程で学ぶことを決めました。

半年間の教育課程では、講義の他、科目毎のテストやレポート、グループワーク、演習、臨地実習など、目まぐるしい毎日で、全国から志を同じくして集まった仲間達と共に、励まし合いながら学びました。

今回の学びの中で、今後所属病院で摂食嚥下障害看護を実践・展開する際に、患者への看護を実践するだけでなく、看護スタッフや多職種など、医療チームに対するアプローチも重要であることを学びました。患者に対する直接的なアプローチでは、嚥下機能を評価し、機能帰結を考慮した目標設定を行なった後、直接訓練のほか看護の視点から個別性に応じた間接訓練を、日常生活動作に組み込み実践していきます。また、日々の看護実践やコンサルテーションの場において、今回学んだ知識や技術を普及していくことも、認定看護師の重要な役割の一つであることを学びました。そして、摂食嚥下障害を抱えている患者の中には、訓練により経口摂取ができるようになる場合もあれば、困難である場合もあります。もし経口摂取困難な状況であっても、患者や家族の「食」に対する思いに最期まで寄り添うことが大切であるため、多職種と常に連携して医療チーム一丸となり、患者の「食べる権利」を擁護し、少しでも摂食に対するニーズを満たすことができるような働きかけをしていきたいと思っています。

最後に、研修中に御指導いただいた先生方、長い期間この研修に行かせていただいた病院関係者の方々に対して心から感謝するとともに、今回の学びを、今後の活動に生かしていきたいと思っています。